

赤谷の 森だより

Akaya no moridayori



赤谷プロジェクト地域協議会
財団法人自然保護協会
赤谷森林環境保全ふれあいセンター

●赤谷の森写真館 初夏の三国は、ツツジ街道 ②③

- 新たな森づくり、スタート! 4-5
- サポーター活動の紹介 6
サポーターの腕章ができました
- ナラ枯れについて 6
- イベント情報 7
「ムタコの日」のお知らせ/赤谷プロジェクトの活動/新メンバー紹介

- 赤谷プロジェクトに望むこと 8
森林塾青水 清水英毅さん
- 赤谷プロジェクト、って? 8

見て、見て!!
熊の親子だよ。



親子で食事中かな。
赤谷の森は、エサが
いっぱいあるんだね!



この時季、旧三国街道は、
さまざまなツツジに彩られています。
こんなに種類があるって、知っていましたか？

初夏の三国は、 ツツジ街道

●AKAYAプロジェクト・サポーター 竹村秀雄

5月から6月にかけて、旧三国街道では、さまざまな色や形のツツジを見ることができます。低い山でもよく見られる朱色の「ヤマツツジ」を基準にすると、たくさんの種類が覚えられますよ。

長岡藩士の墓から三国峠に向かう下り坂には、いろいろなツツジが。いったい何種類あるのか、探してみませんか。

まず、ヤマツツジ大の花が咲いて葉が3枚あったら、オシベを数えて下さい。5本なら「ミツバツツジ」、10本なら「トウゴクミツバツツジ」か「サイゴクミツバツツジ」です。目立たない5mmくらいの、少し寸詰まりのつぼ型の花が2～3個枝先から

下がっているのは「コヨウラクツツジ」。葉の付け根から小さなつぼ型の花をたくさん、ひものように垂れ下げて咲いているのは「アブラツツジ」です。

三坂線の両側に、ポツンポツンとヤマツツジより赤みの強い花が咲いていたら、オシベを数えて下さい。10本あったら「ムラサキヤシオ」です。また、庭木のドウダンツツジに似た形をした、濃い赤い筋のある花は「サラサドウダンツツジ」です。

名前を知らなくても、覚えられなくてもいいのです。携帯電話で写真を撮ったり、虫眼鏡で特徴をつかみ、帰って調べれば楽しさ2倍です。さあ、いろいろなツツジを見にでかけましょう！



ヤマツツジ

日本全国、山に咲くツツジの代表です。朱赤～紅紫色の花がたくさん咲きます。
[撮影：川端白人]



コヨウラクツツジ

うっかりすると見落としてしまうような、小さな地味なつぼ型の花。よく見るとサクラランボを想わせる可愛い花です。
[撮影：竹村秀雄]



サラサドウダンツツジ

とても上品で美しい花です。赤谷の森で見られるものは赤味が強いように感じています。 [撮影：川端白人]



ムラサキヤシオ

ヤマツツジとほぼ同じ大きさで、色鮮やかな濃い紅紫色の大変きれいなツツジ。アカヤシオがオシベ5本に対し、10本ある。 [撮影：竹村秀雄]



アブラツツジ

葉が3枚があるのでついた名。白い花がたくさんつり下がります。花も種子も下向きです。 [撮影：川端白人]



ウラジロヨウラクツツジ

ヨウラクツツジは、木が小さく花が少ないので目立ちません。花は下向き、種子は上を向きます。 [撮影：川端白人]



トウゴクミツバツツジ

葉が3枚で、オシベが5本ならミツバツツジ。10本ならトウゴクミツバツツジかサイゴクミツバツツジですが、外見からは見分けられません。このツツジのオシベは10本。 [撮影：竹村秀雄]



イワナシ

岩場から目に飛び込んできた、ロウ細工のようなピンク色の筒型の花。イワカガミかと思ったら、だ円形の厚い大きな葉をした、れっきとしたツツジ科の低木でした。ナシに似た味の実を付けるそうです。食べてみたいですね! [撮影：竹村秀雄]

生き物との共生、地域づくりをめざして ———— 【報告】 関東森林管理局計画課

新たな森づくり、スタート!

「赤谷プロジェクト」が8年目に入った今年、赤谷の森では、新たな森づくりがスタートしました。その計画の特徴をご紹介します。



立場の異なる人たちが作った、森づくりの基本構想

赤谷プロジェクトは、地域協議会、日本自然保護協会、関東森林管理局の三者が協力し、「生物多様性の復元」（さまざまな生きものとの共生）と「持続的な地域づくり」をめざして、活動しています。その活動エリアは、群馬県みなみ町旧新治村の北部、三国山地の南麓に広がる約1万ヘクタールの国有林。「赤谷の森」と呼んでいます。全国の国有林は5年に1度、森づくりの計画が見直しされます。そのため赤谷プロジェクトでは

2年ほど前から三者で検討を重ね、今後の森づくりの基本的な考え方をまとめた「赤谷の森・基本構想」を作成。

さらに赤谷プロジェクトの活動で得られた成果も考慮に入れて、「赤谷の森管理経営計画」（平成23年4月1日～平成28年3月31日）としてまとめ上げました。

ほかの国有林と異なるのは地域、自然保護団体、国（行政）という立場の異なる人たちが、同じ目的のために、ともに活動しているという点。国内でも先進的な取り組みです。

全国初の、三者協働作業やさしい言葉で書きました。

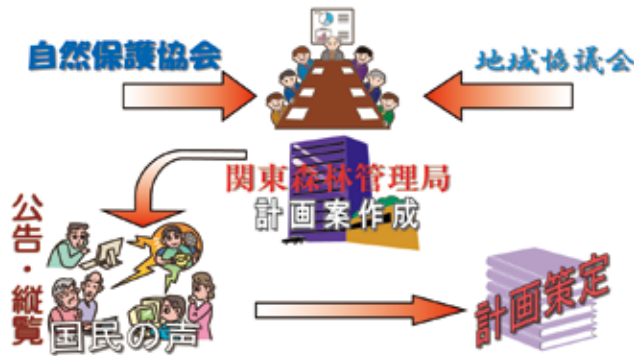
今回の、「赤谷の森管理経営計画」の特徴をご紹介します。

1 国有林野計画を三者で作るのは、全国初!

国有林の森づくりの計画を、地域、自然保護団体、国（行政）と、三者で協働で作成するのは、全国で初めての事です。

「赤谷の森・基本構想」も含めると、2年の歳月をかけて将来め

必ず森林の姿を描き、取り組まなければならぬ課題を出し合い、今後の方針などを決めました。

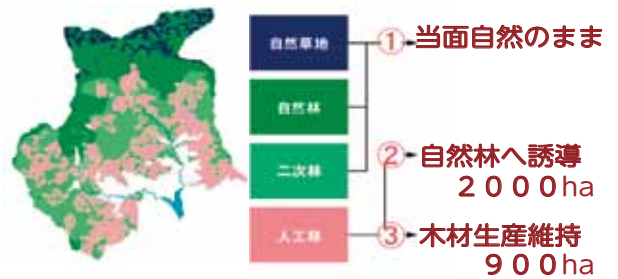


2 全体を4つに分けて、扱い方を決めました。

将来目標とする森林の姿を、

- ① 自然林（天然林）として維持する森林
 - ② 本来あるべき自然林に戻す森林
 - ③ 木材生産する林として維持する森林
 - ④ 特別な取扱いが必要な森林
- と、4つに区分し、それぞれの森林の取り扱い方を決めました。

生物多様性の復元と木材生産の両立



3 テストやモニタリングを続け、必要なら見直します。

人工林を自然林に戻すための伐採テスト、治山ダムの中央部を撤去した後の土砂の流出や生きものに与える影響のモニタリングなどを行います。

その成果を科学的に評価・検証し、必要があれば、計画を柔軟に見直すことにしました。

4 やさしい言葉で書きました。ぜひ、読んでみてください。

多くの人に読んでもらえるよ



治山ダムの中央部を撤去



人工林を自然林に戻す試験地

う、専門用語をできるだけ避けていますので、興味のある方は、赤谷森林環境保全ふれあいセンターのホームページをご覧ください。

赤谷の森のこれからは？

「赤谷の森」で行われている生物多様性の取り組みは、すぐに成果が表れるものではありません。科学的な知識やデータを集めるには、かなりの歳月がかかることでしょう。

そのため、原点を見失わないよう、もともとなる考え方や将来の森づくりへの思いなどを、三者で共有し続けることが大切だと考えています。その意味からも「赤谷の森管理経営計画」を作成したことは、とても意味のあることです。

この計画に基づいて一歩ずつ、すてきな森づくりをすすめていくつもりです。これから森は、気持ちのいい季節を迎えます。だれでも参加できますので、みなさんもプロジェクトの活動に参加してみませんか？

赤谷プロジェクトの活動は、赤谷プロジェクト地域協議会、日本自然保護協会、赤谷森林環境保全ふれあいセンターのホームページで、それぞれご覧になれます。

(アドレスは8頁をご覧ください。)

サポーター活動の紹介



いきもの村でトレイル整備をするサポーター

新コーナーです！ここではサポーターの方々が行う、「赤谷の目」などの活動をご紹介します。
赤谷プロジェクトは、プロジェクトの趣旨に賛同し、関東一円から集まるボランティアの方々（AKAYAプロジェクト・サポーター）の協力を得て、運営しています。



腕章をしてテンのフンを調査するサポーター

とともに、赤谷の森の自然を知るためのさまざまな調査活動を行い、赤谷プロジェクトを支援していただいています。
サポーターの腕章ができました
このたび、サポーターの腕章が完成しました。森の中に入るため、ハンターカラーと同じ少し目立つ色にしました。赤谷の森周辺やイベントなどでこの腕章を見かけたら、気軽に話しかけてください。何よりも赤谷の森のファンであり、この地域の魅力を深く理解されている方たちですから！

AKAYA PROJECT SUPPORTER

ナラ枯れについて

昨年夏、みなかみ町湯楡曾で、群馬県で初めてナラ枯れが確認されました。

赤谷の森でも早ければ今年にも、ナラ枯れが発生する可能性が出てきました。

ナラ枯れとは、カシノナガキクイムシという体長5mmほどの昆虫が、病原菌を媒介してナラ・カシ類を枯らす伝染病です。ナラ枯れは、梅雨明けの7月下旬～8月にもっとも多く発生し、ミズナラなどのナラ・カシ類が数年以内にいっせいに枯れてしまうこともあります。
枯死後3～5年ほどで太い枝が折れて落ち、10年後には約半

数の木が倒れるとの報告もあります。

ナラ枯れの拡大を防ぐためには、早期発見、早期駆除が必要です。赤谷の森における対策もプロジェクトで検討していきます。

また、被害木をほかの地域に移動させない、持ち込まないことも重要。特に、シイタケの原木や薪に注意が必要です。



ナラ枯れの見分け方..

- 夏、葉が紅葉したように赤褐色になる。
- 木の幹に直径1.5mmの穴（爪楊枝が入らない位の大きさ）があき、木くずがでて、根元に木くずが大量にたまる。



ナラ枯れで枯死した木の根元 (2010年10月4日)

2月～5月 赤谷プロジェクト活動日誌

活動日	活動内容(活動場所)
2月 9日	にいはる・けもの会議 (仮称) (みなかみ町)
2月14日	自然環境モニタリング会議 (みなかみ町)
2月15～16日	対馬市視察 (いきもの村他)
2月20日	赤谷の森自然散策 (旧猿ヶ京小学校他)
3月 2日	茂倉沢治山検討委員会 (さいたま市)
3月10日	調整会議 (みなかみ町)
3月26日	南ヶ谷湿地保全管理計画検討会準備会合 (さいたま市)
3月27日	地域協議会総会 (まんてん星の湯)
3月30日	企画運営会議 (みなかみ町)
4月 9日	第1回南ヶ谷湿地保全管理計画検討会 (高崎市)
4月10日	NPOぐんま緑のインタープリター協会講演 (前橋市)
4月29～30日	イヌワシ特設調査 (赤谷の森全域)
5月6～ 8日	イヌワシ特設調査 (赤谷の森全域)
5月 7日	第2回南ヶ谷湿地保全管理計画検討会 (高崎市)
5月9～10日	J Rトランベール取材 (小出俣エリア他)
5月11日	事務担当者会議 (みなかみ町)
5月14～15日	放送大学面接授業 (小出俣エリア他)
5月22日	濁度調査 (ムタコ沢)
5月27日	植生管理ワーキンググループ会議 (東京都中央区)

○赤谷プロジェクト地域協議会定例会

2月6日、3月6日、4月3日、5月15日

○赤谷の日 (いきもの村ほか)

2月5日～6日、3月5日～6日、4月29日～30日(自然誌調査)、5月14日～15日

○猛禽類調査 (赤谷の森全域)

2月1日、3日、4日、5日、8日、16日、23日、26日、3月1日、8日、24日、25日、29日、4月1日、2日、5日、7日、9日、12日、13日、15日、18日、21日、25日、27日、5月16日、17日、19日、21日、25日、31日

○ホンドテンモニタリング調査

(赤谷の日以外の調査日、赤谷の森全域)

4月10日、16日、17日、5月7日、21日、22日



イベント情報

「ムタ」の日「のお知らせ

「おいしい水と豊かな森」に支えられた地域づくりを目標に、自然再生について学びます。

【実施日】平成23年8月7日(日) 12時30分(集合)～16時

【集合場所】みなかみ町宮赤沢スキー場

【募集対象】小学生以上(小学生は保護者同伴)

【参加費】100円

【準備するもの】野外活動のできる服装(長

袖、帽子、長靴 雨具、飲み物

【申し込み先】地域協議会事務局

(2024)2119(夜8～9時)(安田) ☎090

【募集締切】平成23年7月31日(日)

【主催】赤谷プロジェクト地域協議会



新メンバーの紹介



関東森林管理局 計画課 森林施業調整官

石坂 忠

2年間のごぶさたです。また、赤谷プロジェクトに戻って参りました。いつの間にか月日が経ってしまい、忘れていたことが多いのですが、新たな気持ちで赤谷プロジェクトに取り組みますので、よろしく願います。

赤谷プロジェクトに望むこと



■ 森林塾青水

塾長 清水英毅

森林塾青水は、「飲水思源^{いんすいしげん}」を合言葉に集う、利根川流域市民団体です。フィールドは、みなかみ町藤原集落にあります。

もと入会山だった町有地21ヘクタールの上ノ原「入会の森」を中心に、茅場（ススキ草原）や古道、古民家の再生・活用などの活動を、地元ならびに町役場の皆さんと協働して進めてきました。

一方、赤谷の森は国有林1万ヘクタールで、地域協議会と日本自然保護協会ならびに林野庁関東森林管理局を中核とする協働プロジェクトです。

フィールドのスケールや地権

者、活動の枠組みは異なりますが、どちらも首都圏の水瓶・利根川源流域にあります。生物多様性や地域固有の自然・歴史・文化を保全し、地域の活性化に結びつけようという活動目的も同じです。

ところで、昨秋開催されたCOP10で数々の取り組み目標が決まりました。問題はその実行、特に市町村レベルでの具体的な「地域戦略」の推進です。

幸い、みなかみ町では本年4月、地域の生物多様性保全を目指す「昆虫等の保護を推進する条例」の制定をみました。地元住民や団体などの意見を参考に、保護対象地域や管理団体が指定されることです。

この際、町役場当局の動きに呼応し、赤谷、上ノ原はもとより町内の関係保護団体が連携・協働して、「地域戦略」推進のモデルケースを、利根川源流から全国に先駆けて発信したいものです。

赤谷プロジェクトって？

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして、活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者がともに活動するという、全国的にもめずらしい取り組みです。

活動地域は、旧新治村三国山脈に広がる、約1万ヘクタール(10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから、「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生きものの調査や研究、環境教育、研修の受け入れなど、活動はさまざま。毎月第一土・日曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。また地域協議会では、子ども向けの「ムタコの日」なども開催しています。

どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。



本誌や赤谷プロジェクトに関してのお問い合わせ先は、こちらへどうぞ！

赤谷プロジェクト地域協議会

代表幹事 林 泉
TEL.0278-66-0888
 事務局長 安田 剛士
TEL.0278-22-2119
<http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>

(財)日本自然保護協会

プロジェクト担当 出島 誠一
TEL.03-3553-4107
<http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html>
 メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林環境保全ふれあいセンター

所長 鈴木 綾子
TEL.0278-60-1272
http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
 メールアドレス akaya_postmaster@rinya.maff.go.jp